



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2018年 8月 1日発行

8月号 向日市上植野町西小路3-4
No. 90 杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ：<http://sugi.pupu.jp/>

新型ミサイルシステムに5千億円？ 安倍さん、あんたのカネじゃないよ！



杉谷伸夫・63才
向日市議会議員・無所属市民派
上植野町イトーピア在住

「5千億円？いったい何考えてるの？あんたのカネじゃないんだよ！」
7月30日、ニュースを一緒に見ていた市民が怒りの声を発しました。

防衛省は新型ミサイル迎撃システム（イージス・アショア）の購入先を発表しましたが、何と2基で2668億円。運用費やミサイル購入費を加えると4664億円。この他にも、悪名高いオスプレイ17機に約3600億円など、数千億円単位の武器購入を次々に進めています。

5千億円は、向日市の予算の約30年分です。日本に1台しかない全地形対応防災車・レッドサラマンダー（約1億円）を全国の1751市町村すべてに2、3台ずつ配備できます。全国の小中学生の給食費を完全に無償にできます。財源がないからと、医療や介護の自己負担が年々増やされる一方で、安倍政権による軍備への大盤振る舞いは異常です。

しかも、新型ミサイルシステム導入の理由は「北朝鮮の脅威」でした。

しかし朝鮮半島では南北・米朝首脳会談を経て、非核化と和平へ進もうとしており、導入の根拠はありません。軍備拡張と北への圧力強化一辺倒は、東アジアの平和にむけた国際社会の努力に反します。

「軍備を削って福祉や若者支援に回せ！」—このことを今こそ求めましょう。（7月31日・杉谷伸夫）

絶対的権力は絶対に腐敗する

アマレスリング界の栄和人監督、日本大学アメフト部の内田正人監督に続き、日本ボクシング連盟の山根明会長と、スポーツ界の絶対的権力者による不当支配・不正が続々と表面化しています。

「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」—これはイギリスの歴史家、ジョン・アクトンの格言です。今の日本は、スポーツ界だけでなく、政権のトップから腐敗が進んでいます。不正が明るみになっても周辺が「忖度」でもみ消し居直り、その一方で国民の大多数が反対するカジノ法など悪法を次々と強行。豪雨災害の最中に政権の中心人物達が笑顔で酒宴を開くなど、あきれられるばかりです。国の背骨まで腐敗する前に、私たち主権者市民の手で手術が必要です。

8月の催しのご案内

★8月11日（土）

市民参加でまちをつくる会

10時～12時 杉谷ひろば

上植野町西小路3-4

※参加費：100円（資料代）どなたも歓迎

向日市議会・定例会の予定

8/27(月) 本会議（議案提案）

9/5, 6, 7 本会議（一般質問）

9/10, 11, 12 常任委員会

9/18(火) 本会議（最終日・採決）

※開会はずべて午前10時から

連絡先

ご相談はまずお電話を！ TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



大阪北部地震、西日本豪雨災害では、向日市民には大きな被害は出ませんでした。これからの向日市の防災について、いくつも気づかされることがありました。

① ブロック塀の点検をしましょう！ 危険なブロック塀撤去に、市の助成を

高槻市の小学校の通学路のブロック塀が倒れ、下敷きになった小学生が犠牲になりました。向日市でも小中学校と通学路のブロック塀の緊急点検が行われ、法に適合しないブロック塀が12ヶ所あったと発表しました。しかし、民家のブロック塀などは中に入って確認できていないようです。

市民の皆さんのご自宅のブロック塀を点検しましょう。高さ1.2mを越える塀は要注意です。

内部や劣化具合など詳細な調査ができないので、古いブロック塀や高いブロック塀は危険があります。しかし撤去には相当な費用がかかるため、踏み切れない方も多いでしょう。

そこでこの機会に国の補助を活用して市民のブロック塀撤去への助成制度を作る自治体が増えています。長岡京市では、ブロック塀を撤去して生け垣等を作る場合、費用の3分の2（最大75,000円）まで助成しています。向日市でも助成制度の検討を求めたいと思います。

② 活断層の真上に住宅開発しない規制を！

向日市内には、檜原断層が走っています。活断層が動けば、その真上にある建物は壊滅的な被害を受けます（少しずれば問題ない）。活断層の位置はだいたいわかってるので、その付近を住宅開発する場合には、地質調査を義務づけるなど、何らかの規制が必要ではないでしょうか。

活断層の位置は、国土地理院のHPで詳しく見れます。⇒「活断層図 国土地理院」で検索！

③ 桂川の決壊は起こる！命を守る対策を

●真備町の浸水被害からの教訓

岡山県真備町では、市内を流れる河川が複数箇所で氾濫・決壊し、向日市の約1.5倍もの面積が浸水しました。町の誰も経験したことのない規模の氾濫でした。向日市では、命に関わる水害の

可能性は、桂川の氾濫の場合です。桂川は5年前の水害で、久我橋の下流右岸（向日市側）で越水し、一部地域が浸水しました。決壊の可能性も十分あると覚悟する必要があります。

真備町の浸水域は、ほぼ事前に防災マップで予測していた通りだったようです。河川の氾濫による浸水域の予測はかなり正確です。桂川氾濫の場合の浸水想定図は、向日市防災マップで公表されており、事前に自分の被害予測ができます。

今回の豪雨では、向日市のJR京都線より東側の広範な地域に2回も避難勧告が出されましたが、実際に避難した人は4世帯5人でした。1回目は真夜中の避難勧告だったこともありますが、JRの線路の下をくぐって西側に避難する危険を冒すより、万一の時は自宅の2階に避難すれば良い、という判断を多くの市民がされました。しかし向日市の一部地域では、2階に避難しても危険な地域があります（この件については次項参照）。

④ 向日市防災マップの改定を



防災マップは全戸配布されています。この機会にぜひ見て確認して下さい。地震・大雨それぞれの場合について、自宅付近ではどの程度の震度、浸水・土砂災害になるかの情報や、指定避難所、災害への備えなどが書かれています。市のホームページでも見れます。

向日市防災マップでは、大雨災害時の想定浸水深さの区分が、0.5m（メートル）未満、0.5～2m、2～5mとなっており、JRより東側地域のかかなりの部分が浸水深2～5mとなっています。浸水深さ3m程度なら2階に避難すれば助かりますが、5mなら2階に避難しても命が危ないです。それがわかるように、浸水深さの塗り分け区分の境界を3mにするべきではないでしょうか。想定浸水深さ3m以下の地域は、いざという時は2階に避難すれば良く、3m超の地域は外部避難しなければなりません（2階建の場合）。市民にその危険度がわかるよう改善を提案します。

■委員「北のみでは納得できない」

■市長「南北両方とも走らせる」

前回4月の地域公共交通会議で、阪急バスなど既存の路線バス事業者が向日市コミュニティ・バスの運行を引き受ける意思がないとわかり、急ぎょタクシー事業者へ運行委託の交渉をすることになりました。その結果、北コースは都タクシーが受託の意向を示しました。但しバスでなくジャンボタクシーになります。南コースはメド無しです。

7月25日の会議では、多くの委員から「北のみでは納得できない。南北両コース同時運行が前提だ」と厳しい批判が続出。市は「とりあえず北だけ走らせるというつもりはない。両方とも走らせるつもりだ。」「当初予定通り、年内運行開始へ最大限努力する」と答弁しましたが、何らメドはたっており、大変厳しい状況です。

2年半前に「地域の足を確保するためにバスを走らせる」ことを前提に、地域公共交通会議で本格的な議論を始め、市民誰もが利用できるコミバスを南北2ルートで走らせることを決め、今年3月に市民意見を募集して運行ルート案を決めました。そして、



いざバスの運行事業者を決める段階になって、阪急バスを初めとするバス事業者が「引き受けません」と回答し、大混迷しています。

■バス事業者の責任ある姿勢を求める

地域のバス事業者は、公共交通事業者として地域の公共交通全体に一定の責任があります。向日市民の意向としてコミバスを走らせることを決めたのですから、行政と協力してその実現に努めていただきたい。バス運行の専門家としてコミバスの検討に初めから参加し、コミバスの車種・ルート案と一緒に作ってきたのです。今さら「できない理由」を説明するのではなく、どうすればできるのか、それこそバス運行の専門家として実現に向けた提案をし、市民の意向であるコミバス実現に、行政とともに責任を持って関わって頂きたいと思えます。

■路上駐車など課題解決に地域の協力を

会議ではその他、バス運行にあたって解決すべき課題がいくつか出されました。

①バス停の確保

地権者や地域住民の了解が得られない箇所が、北ルート3ヶ所、南ルート1ヶ所ある

②北ルートは試走を行った結果、色々な課題が出てきたが、大きな課題は路上駐車対策とのこと。警察や地域の協力が不可欠です。

プラスチックごみ問題を考える①

容器包装プラスチックごみ
分別回収の知られざる問題

プラスチックごみによる環境破壊が世界中で問題になっていますが、第1回目今回は容器包装プラスチックごみ処理の仕組みの問題点について考えます。

「容器包装リサイクル法（容リ法）」によって容リプラ（容器包装プラスチック）は、市民は「分別排出」、市町村は「分別収集・選別保管」、事業者は「再商品化」の義務があります。しかし大きな問題があります。

市民にとっては、選別して排出しなければならない

のは、プラスチックごみのうち「容リ法」の対象になるものですが、非常にわかりにくい。また月に2回程度の回収なので、かさばって保管が大変です。

市町村は、容リプラのリサイクル行程でもっとも費用がかかる収集・運搬・選別・保管の行程を担い、多額の税金を投入しています。発生原因者である事業者の負担は、それと比べるとはるかに小さいのです。

さらに、せっかく苦労して収集・選別した容リプラですが、ペットボトル以外は、実際に材料リサイクルされているのは3分の1で、残りは結果的に燃やされています。家庭から出される様々な素材の混じり合ったプラごみは、材料リサイクルに適していません。

市民と市町村にとって負担が多く利点の少ない現在の仕組みは、抜本的な見直しが必要です。リサイクルより前に、プラスチック容器（ごみの元）を製造する事業者は、リサイクル費用の全額負担を求めることで、ゴミの元から大幅削減すべきです。

グローバル時代を生かす日本国憲法

安野 洋子

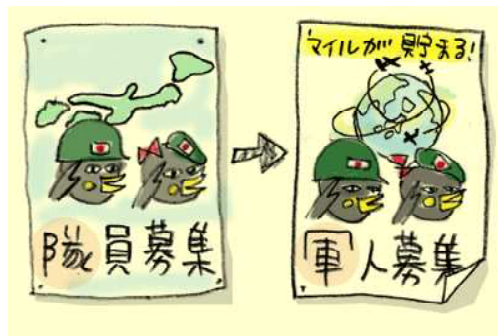
「アホノミクス」「ドアホノミクス」と言い続け、安倍政権を批判している同志社大学の浜矩子（のりこ）さんの講演を聞いた。これからのグローバル時代に日本国憲法が重要な役割を果たすことを熱く語られた。

昔は「ローマ帝国」「大英帝国」、戦後の「アメリカ合衆国」と強大な力を持った国が出現した。しかし、これからは「ヒト・モノ・カネ」が国境を越え、自由に飛び交うグローバル時代をどう生きるかだと、その時指針となるのが日本国憲法であると、前文を例に詳しく語られた。「諸国民との協調による成果」「諸国民の公正と信義に信頼し」「自国のことのみ専念して他国を無視してはならない」と、すべてこれこそ進歩的な日本の憲法の姿であると。何十年か前、社会党の土井たか子さんが「日本国憲法は今でも旬」と言った時、作家で私達の読書会の小田実は「今こそ旬」と述べたことが思い起こされた。

安倍首相は「戦後レジーム」から脱却し、「大

日本帝国」を構築するために憲法改悪を言うが、戦後我々が築いてきた民主主義と平和憲法をどう思っているのか。この安倍政権の5年半、どんな悪法が毎年毎年制定されたか忘れてはならない。それでも9月に自民党総裁に三選され、安倍政権がさらに3年間続くのだろうか。

国会ではいいかげんなのに、外交の安倍としてこの5年半に六十数回、ほぼ1ヶ月に1回のペースの外遊だったという。外遊費総額は、2016年1月までの3年間・40回分だけで約87億7千万円、1回平均約約2億2千万円。一番費用のかかるのは、一回飛ばすのに1億円かかると言われる専用機である。しかも疑惑や不祥事が発生するたびに、追及を逃れるように外遊を繰り返してきたのである。さらに3年これが継続されるのかと思うと、うんざりする。2015年末には必要の無い衆議院選挙をして7百億円も使ったのに、フリー・ジャーナリストの後藤さんを助けるためには一円のカネも出さなかった。



暑い夏、まだ安倍政権が続くのだろうかと思うと気が滅入るのは私だけだろうか。

東アジアの平和のための 2018ZENKO in 大阪 に参加

7月28-29日、「戦争ではなく対話で東アジアの平和・非核化の実現を」～安倍政権は退陣！9条改憲を阻止しよう～をテーマに開かれた国際連帯の催し「2018ZENKO in 大阪」に参加しました。朝鮮半島の情勢が大きく転換し、東アジアの平和・非核化の可能性が開かれつつある中で、ろうそく革命を成功させた韓国、新たな米軍基地建設に反対して闘う沖縄の辺野古・宮古島などからゲストを招いて開かれました。

韓国民は、朝鮮半島平和への動きを支持

この間の南北・米朝首脳会談から朝鮮半島の非核化・戦争終結にむけた動きを、韓国世論の8割以上が支持しており、6月の地方選では、これを

進めてきた文政権与党が記録的な圧勝をしたとの報告がありました。朝鮮の南北分断の悲劇の歴史の出発点は、日本の35年に及ぶ朝鮮の植民地支配です。南北朝鮮の動きに対し安倍政権は北への圧力強化ばかりですが、日本には朝鮮半島の戦争終結に責任があるはずです。

沖縄県知事、辺野古埋立て承認撤回へ

沖縄県民の長年にわたる反対を無視して、政府は辺野古の海（大浦湾）の埋め立て工事を進めています。ついに翁長雄志・沖縄県知事が、辺野古埋め立て承認を撤回することを表明しました。8月中旬に埋立工事は一旦止まります。

沖縄の上間芳子さんは「大浦湾の海底は国の調査の結果、マヨネーズのような軟弱地盤であることがわかった。それでも工事を強行するのは沖縄県民を諦めさせることが目的。辺野古の新基地建設は戦争の基盤作りだ」と語りました。

朝鮮・東アジアが挑発から話合いと平和へ向かおうと努力している今、それに唯一逆行する日本政府の姿勢を変えさせなければ！（杉谷）